

石川病薬ニュース

石川県病院薬剤師会会報

令和4年(2022)/7.31 発行 No.180

CONTENTS

- ・巻頭言
- ・第72回石川県病院薬剤師会定例総会
- ・学術研修会
- ・薬局の窓口から
- ・エキスパートに聞く! ~輝く石川のキラ星~
- ・委員会報告
- ・他都道府県病薬会誌寄贈一覧
- ・南船北馬
- ・寄稿



〔巻頭言〕

薬剤師として縁を活かす力を磨く

石川県病院薬剤師会副会長 金沢医科大学病院 薬剤部長 政氏 藤玄…… 1

〔第72回 石川県病院薬剤師会定例総会〕 …………… 3

〔学術研修会〕

令和3年度第1回（通算第171回）学術研修会 JCHO金沢病院 本田 恭子…… 19

発表者報告

処方適正化に向けた疑義照会内容の分析 石川県立中央病院 日下 哲也、他…… 21

院外処方箋における保険薬局との疑義照会プロトコル運用に関する調査
浅ノ川総合病院 久保和香葉、他…… 23

錠剤分包機鑑査システム導入による鑑査の精度と速度の比較
金沢医科大学病院 荒川 希美、他…… 25

病院と薬局の連携体制に関するアンケート調査 公立河北中央病院 谷山 徹…… 27

当院におけるARNIの使用状況調査 公立松任石川中央病院 岡田 千穂、他…… 29

悪性神経膠腫患者の院外処方に関する多職種連携プロトコルの作成と運用
金沢大学附属病院 岡本 綾菜、他…… 31

整形外科手術予定患者の周術期管理における取り組み
～入院前から退院後までシームレスな薬学的管理を行うために～
石川県済生会金沢病院 室田 恵理、他…… 33

文献に基づいた嚔下障害原因薬の調査と院内採用リストの作成過程
金沢市立病院 新井 浩之、他…… 35

〔薬局の窓口から（84）〕

大腸癌治療薬の副作用と服薬指導のポイントについて
JCHO金沢病院 甲本 駿介…… 37

〔エキスパートに聞く！～輝く石川のキラ星～（22）〕

日本摂食嚔下リハビリテーション学会認定士/臨床栄養代謝専門療法士専門領域
：摂食嚔下専門療法士 公立松任石川中央病院 金原 寛子…… 40

〔委員会報告〕

がん治療委員会
第38回 がん薬物療法セミナー報告 公立松任石川中央病院 田村 健吾…… 43

中小病院委員会
第34回 中小病院薬剤師研修会報告 南ヶ丘病院 奥山 敦子…… 45

感染制御委員会
第21回 石川県感染制御セミナー報告 公立松任石川中央病院 三田麻友子…… 46

〔他都道府県病薬会誌寄贈一覧〕 …………… 50

〔南船北馬〕 …………… 51

〔寄稿〕「古寺との結縁-57」 雨宝寺・蓮昌寺～犀星・鏡花とのゆかり～ 院瀬見義弘…… 52

〔編集後記〕

表紙写真 撮影
：熊走 尚志

東茶屋街と五十間長屋
表紙は東茶屋街の起点にある枝垂柳、遊郭と外界の境界に立つ「見返り柳」と呼ばれ
帰り際、この柳の下で客が未練たらたらに後ろを振り返った…それが由来だそうです。
裏表紙は金沢城の五十間長屋（多門櫓）で武器や什器等の倉庫。その櫓の中に多聞天（四天王の一つ
で北の守護神）を祀っていたことによると云われている。

～お詫びと訂正～ 石川病薬ニュースNo179 26頁4行目にて、下記の通り誤りがございました。お詫びして訂正いたします。
（誤）薬剤師として、開始する前に患者の検査値や薬歴、病歴等を確認し、医師へ処方提案や投薬
（正）薬剤師として、開始する前に患者の検査値や薬歴、病歴等を確認し、医師へ処方提案や投薬支援ができることです。

薬剤師として縁を活かす力を磨く

石川県病院薬剤師会副会長 政 氏 藤 玄
金沢医科大学病院薬剤部長

薬学部を卒業して病院薬剤師として30有余年経ちました。駆け出しの頃を懐かしく思います。大学の研究室でデータ収集のため実験の日々を過ごしていた時はハードワークだと思っていましたが、比較にならないほどの立ち仕事に、入局当初は、日々反省と体力の消耗で帰宅後は、泥のように眠る毎日でした。調剤は、手書き処方せんのため特徴のある筆跡を読み解き医師のサインから始まり規格抜けや名称間違いが無いかと気が抜けない日々でした。「薬剤師として処方の意図を知り症例を学び患者さんに寄り添うには、処方医に聞くのが近道だ。」と、先輩に引っ張られて幾度となく医局で医師から直接解説をして頂いたことは、応じてくれた医師、先輩薬剤師には今でも感謝しております。医師や患者との繋がりが如何に大切かを、薬剤師として感じた出来事でした。

今年度の診療報酬改定は、周術期における薬学的管理の評価や術後疼痛管理チーム加算、小児慢性特定疾病児童等への薬学的指導を行い保険薬局へ情報提供した場合の評価が新設される等、前回に引き続き薬剤師の功績が認められた結果となっております。当院でも、チーム医療等で薬剤師の関与しないものが無いほどにその職能を求められています。医薬品の安全管理及び適正使用推進に向けて、病棟薬剤師のTDM業務への関与を推し進めております。従来は、薬剤部TDM担当者が一手に引き受け解析を行っていましたが、TDMを必要とする薬剤については、病棟薬剤師自らも解析に関わり、処方提案への確固たる自信を持って、医師に進言できるようになりつつあります。これは、抗菌薬適正使用支援チーム（Antimicrobial Stewardship Team：AST）との連携や、処方変更のタイミングを大きく前倒しでき、治療に大きく貢献しております。外来診療では、看護師を中心に2018年より入院退院支援加算の算定拡大を目論み、外来における治療の説明、オリエンテーション、持参薬の確認、褥瘡・栄養スクリーニング等を実施するPatient Flow Management：PFMとして展開しております。現在は、外来スタッフの理解と協力により、薬剤師の人的資源の有効活用の視点から薬剤部での持参薬確認を実施しております。更に、薬剤師による持参薬の継続・中止への情報提供は重要なものとして入退院・予約センターへの薬剤師常駐の声が上がりました。これは、非常に有難いものであり、何れ薬剤師外来も必要と

なってくると感じております。

医師の働き方改革も喫緊の課題として挙げられ、薬剤師がタスク・シフト／シェアにより医師・看護師の負担軽減を如何に実現できるか問われております。平成31年4月に調剤業務のあり方について通知があるのとおり、対人業務を充実させるために現在の業務見直しを行う必要があります。人員配置に余裕のある病院など或るはずもないと思います。薬剤師が稼げる点数は、更に増えるのは間違いないことではありますが、生産性効率と安全性を見据えた薬剤師の再配置に腐心しております。

チーム医療の中でのマネジメント能力・リーダーシップを発揮するために、職種・年齢を問わずにコミュニケーションをとることが必要と感じております。知識・技術はあっても、他者のために発揮できていない、または、本当に必要とされているのかが分からない。そのジレンマに陥り、何故分かってもらえないと悩んでおられる方は、自らを前に出す機会があれば、躊躇せず踏み出して欲しいと思います。それを磨く場所は、地域コミュニティ、ボランティア、幼稚園や学校の役員、そして何と云っても石川県病薬各委員会ではないでしょうか。県内の病院薬剤師交流の場として有用と感じております。輪に入っていく事が、自分に何が求められているのか、自信を持って実践できるのかを磨く絶好のフィールドと思います。私も、毎日スケジュールアプリと相談しながら慌ただしい日々を送っていますが、感謝されることが社会活動の中で薬剤師としての喜びになっております。これからも、石川県病院薬剤師会の皆様と共に歩み、多くの方の言葉を頂き貢献していきたいと考えております。どうぞ、よろしくお願い致します。

